

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200332		
法人名	(株)学研ココファン		
事業所名	学研ココファン柏豊四季台 グループホームココファン柏豊四季台		
所在地	千葉県柏市豊四季台 1-3-1		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成28年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所はH26.5に開業し、現在1年7か月経過しています。立ち上げから間もない頃はスタッフの人員も安定せず、個々の介護の力量に差がありましたが、現在は一定のレベルで対応できるようになっています。地域連携も積極的に行っており、園児や自治体とも交流を行っています。

事業所の大きな特徴として、介護度の改善率が非常に高いというのがあります。半年以上寝たきりの要介護5の方が、歩くようになり要介護3になる等、今まで利用された方のうち5名程改善されております。これは、個別ケアと、その人らしさを失わないケアを重視した結果であり、スタッフのやる気が出した結果でもあると感じております。また、医療連携に強いという点で、お看取りが多いのも特徴になっており、そのケアの一つ一つで、スタッフの優しさやケア力の向上を感じられます。

もう一つの特徴は、ご家族とのつながりが強いという事です。ママな連絡やご協力の多い事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは地域包括ケアシステムのモデル地区として開発された柏市豊四季台団地の中にある。同じビルの中に小規模多機能型居宅介護事業所もあり、合同行事を行ったり、運営推進会議にお互いの管理者が参加し意見交換するなどの交流もある。開設してまだ2年目であるが、利用者と職員もしくは利用者同士明るく談笑している姿から、信頼関係が築けている様子が窺える。家族からも安心して任せられると高い評価を得ている。4ヶ月毎に開催される家族会では多数の家族が参加し、ホームへの提案も多く出される。それらを真摯に受け止め、一つ一つ丁寧に対応しているホームの姿勢は好感がもてる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念I: 1292200332					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域貢献や、地域交流、入居者様の社会性の維持が出来るだけできるように取り組んでいる。	「すべての人が心豊かに生きることを願い今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します」との法人理念を掲げ、日々の支援に当たっての大切な指針としている。会議では振り返りも行い、理念が実践されているかの確認も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への入会を行っており、運営推進会議などへの参加も頂いている。また、地域の方が入居している事もあり、買い物帰り等寄り道したり、自治会の方が見守りしてくれたり交流がある。また、散歩や慰問などで園児との交流も良く行っている。	設立当初から自治会に加入している。地域からの利用者、職員が多いので、自然な形で地域交流ができています。毎週、同じ建物内にあるサービス付き高齢者住宅の住民によるお話ボランティアがある。地域のボランティアの訪問も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内覧が多く、その際の説明で支援方法や、困った時の相談先等の案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を多く頂けるので、改善や向上に向けて取り組んでいます。	利用者、家族、地域の代表、地域包括職員、他施設の管理者、主治医等が参加し、偶数月に開催される。会議では、ホームの取り組みの報告に対し、参加者から積極的な助言、質問、要望が出される。出された要望等は、次の会議で検討結果が報告される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に柏市の基盤整備室とは良くやり取りを行っています。また、高齢者支援課、障害者支援とも連絡を取る事が多くあります。	地域包括が同じ建物内にあり、推進会議にも毎回出席してもらい、情報交換している。市の担当者とも制度の運用面での確認、区分変更の相談等密接に連絡をとっている。市の研修会やグループホーム連絡会にも参加しており、良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠以外は取り組んでおります。玄関施錠については、遠方への歩行、また、初期に不審者の入館があり、現在は行っています。	ホーム内の身体拘束の研修に加えて、法人内のメディアによる研修も実施している。研修後は振り返りも行い、身体拘束しないケアの実践に努めている。玄関は防犯上施錠しているが、外出したい様子があれば、一緒に外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開いたり、アンケートを実施し、周知に励んでいます。また、虐待については細心の注意を払っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自、メディアによる研修を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと書面で出し、説明も行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見交換は、家族会や意見箱の設置を積極的に行い、ご希望を運営に反映させています。	要望は家族会、意見箱、メールなどにて吸い上げるが、家族の訪問の際に直接意見を言う人もいる。訪問の少ない家族にも、ホーム通信を送って運営状況を伝えることで、意見を出しやすくしている。地域住人や他施設との交流も多く、幅広く意見を求めることができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回、面会の時間を設け、話を行っています。その他随時、相談などを行い、他の支援機関などとも連絡を取る事もあります。	職員の意見や提案を検討する仕組みがあり、ホーム内で対処できない場合には、事業所全体として検討される。定例会を毎月同じ内容で2-3回実施して職員全員が意見を言えるよう工夫をしている。職員の勤務時間や希望休など相談しやすい雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給の向上等、そのスタッフの能力に合わせて取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修の積極的な受講や外部研修への参加等、費用負担も含め積極的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市のGH連絡会や、各団体で行うスタッフ交流会への参加を促し、外部からの意見を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを中心に、ご本人の意思を尊重し、行いたい事を行える環境を提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時だけでなく、電話やメール、状況報告書の定期送付を中心に、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各自と相談し、スタッフからの聞き取りも良く行い、対応している。外部のサービス(歯科やマッサージ等)も積極的に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を活かせるように、「一緒に行く」事を意識し、積極的に日常的な作業を行っている。(掃除、食事の準備等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡体系の確立をし、本人が困っている問題や、日常的な傾向を話し、共同で支援していく体制が取れている。他の事業所と比較し、面会の多さもその結果だと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外に出て、馴染みの方と会ったり、面会に来て頂く支援をしている。(在宅時のケアマネにも情報を送ったり、許可の取れているご親戚、近所の方からの問い合わせにも対応)	面会時間に制限が無く、毎日、または週2～3回来る家族も多く、最低でも月に1度は全家族の面会がある。家族と一緒にドライブへ行ったり、馴染みの美容室へ行ったり、また毎日食事介助に来る等、家族は自由に入りしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットごとに差はあるものの、関係性の確立には力を注いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	たとえ看取った方のご家族でも、問い合わせがあった際には対応している。また、看取りの講演を行って頂いたりして、ご協力頂けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に出来るだけ沿って対応している。	寝たきりの利用者が入居すれば、本人の望む姿では無いのではと捉え、観察・評価を繰り返し、立位が取れる方法等を検討している。医療と介護の連携で、多面的に問題点を改善することで、トイレへ行けるようになり笑顔を取り戻す利用者も多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、親せき、近所の方などからの情報を収集している。また、出来る限りスタッフに周知を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士の連絡を中心に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報の収集に努め、介護経計画の作成を行っている。	管理者は介護支援専門員でもあり、家族とは常にメール等で情報交換している。「介護記録」や「支援経過」を下に情報を収集し、職員間で話し合い、各利用者に即した具体的な介護計画を作成している。モニタリングは短期や長期目標の時期に合わせ実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスや、ソフト食の取り寄せなどを行い、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全ての入居者様で出来ている訳ではないが、元々住んでいた地区の民生委員さんなどと協力し、趣味が継続できるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をまめに取り、ご家族の希望を把握したうえで対応行っている。	同じビル内の訪問診療所をかかりつけ医とし、月2回の往診があり、訪問看護師の訪問は週1回ある。各々24時間のオンコール対応の体制を整えている。認知症専門医等は家族が通院介助しているが、家族の希望があれば職員が同席又は受診支援を行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の定期訪問以外に、随時で対応、連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の医療連携室と連絡を取り、早期の対応が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関、ご家族との話を良く行い取り組んでいる。	入所時に本人・家族に説明し、生前意思の確認をとっている。看取り介護については医師・看護師・家族等で話し合い、同意書で確認し同意を得、方針を共有している。医師の指示により管理者を中心に多職種協力体制が整っており、看取り介護の経験が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の定期的な確認を行い、救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご家族に向けて緊急避難場所の確認は随時連絡を行っている。その他、年2回避難訓練を行っているが、夜間の訓練に関してはまだ行っていない。実際に夜警報が鳴り避難した事はある。	消防署指導の消火器及び避難器訓練と、ホームでは火災を想定した自主避難訓練を、それぞれ年2回実施している。全利用者が食堂に集合するタイムを計る等、安全かつ迅速に避難できる方法を学んでいる。備蓄品はホーム内に食料・水等1日半分の確保がある。	ホーム内の備蓄品収納場所が狭いため、十分な備蓄品の確保ができていない。今後、室外に倉庫設置を検討されておられるので、早期の完成を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ心がけている。	否定的な言葉は使用せず、家庭的な環境を大切にし、自分の祖父母に接するような親しみのある対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別ケアでの対応を行い、ご本人の希望に合うような支援や、自己決定の補助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などが特にそうであるが、その人の希望に合わせた対応が出来ている。夜間に入浴される方がいる等、ご本人の生活スタイルに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	異食等のリスクもあるが、化粧など毎日の日課は、ご家族に理解を得ながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけだけでなく、水曜の自由メニュー等、出来るだけご本人様の嗜好に合わせて対応している。また、形態によってはソフト食を取り入れる等対応している。	献立、食材は業者から届き、それを基に職員は臨機応変に食事を作り提供している。できる利用者は食事の準備・盛り付け・食器洗い等、積極的に手伝っている。毎水曜日は利用者が主体となり焼きそば等を作り、好物のピザを取る方もおり、楽しい昼食となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や、食事、検温、排泄、体重等はきちんと記録し経過を追う事で、健康状態の把握と、異常に早く気付く支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々で行えない方を中心に、声掛けと口腔ケアを行っている。また、歯科医の協力を得て、定期的に行って頂いている方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで出来る自立支援は、生活リハビリを通してかなりの効果を上げている。90歳を過ぎた人でも、オムツの使用が無くなった方がいる。	排泄チェック表の活用と、毎日の歩行や体操の効果もあり、日中はおむつ使用の方が無く、介助を必要とする方もいるが、全利用者がトイレで排泄を行っている。夜間も歩ける方が多く、八割の利用者は見守り等でトイレへいつている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫だけでなく、歩いたり等体を動かしての対応と、内服の調整はまめに行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、曜日を決めずに対応している。また、元々の生活スタイルに沿って、頻度や時間も変更している。	入浴はいつでも可能であり、毎日入浴を楽しむ利用者もいるが、週2～3回を基本としている。機械浴を準備しているが、現在は入浴介助で済んでいる。入浴を拒む方は職員と一緒に軽いジョギング等を行い、発汗後は自ら浴室に向い清潔保持ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルを熟知したうえで、行えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員への周知を行い、薬への理解を深める事で変化にすぐ気づく体制が取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や、食事の配慮は良く行っている。ご家族や友人の来訪環境の整備等の取り組みを行っている。食事については週1回自由メニューを実施したり、嗜好品の取り寄せを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は、人によるが、頻度は多い。ほぼ毎日誰かは外に出ている状況。遠方(車を使用しての外出)は、ご家族の協力も得られる。	天気の良い日は利用者の希望により個別に、または少人数で散歩や買い物等へ出かけている。家族と一緒に旅行へ行く利用者もいる。車では数名ずつ、利用者の誕生日月に合わせ外食へ行ったり、初詣・季節の花見等に出かけて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の3分の1程の方は、ご家族様の了解のもと、自分でお財布を持っており、管理している方もいる。高額の場合は事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状のやり取りや、電話連絡は、都度行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の飾りを中心に、出来るだけ居心地の良い空間の提供に努めている。	ボランティアの方と貼り絵を作成し、廊下の壁面に装飾している。できる利用者は廊下の掃除や洗濯物干し・取り込み等を日課とし、食堂では脳トレのプリント・体操等をして過ごしている。共用スペースのラウンジでは隣接の保育園児と紙芝居等を楽しめる工夫もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内が狭いので、共用部での居場所はポイントがわずかしかないが、各居室で友人同士お茶を飲んだりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置いたり、本人が和むような空間作りに努めている。	各居室には使い慣れた筆筒や小物を設置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。洗濯の好きな利用者は早朝から洗濯機を回し、中庭に洗濯物を干し、自室を掃除機かけする方、自分の部屋で友達とお茶を楽しむ方等、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭い事もあり、車いすの方が歩くようになっている。生活リハビリの成果もあり、自由に動けるようになる事で、出来る事が増えている。		